



奥日光の自然を知ろう

～ネイチャーツアーに出かけよう～

時 期 四季それぞれ

時 間 1日

場 所 戦場ヶ原など

○奥日光の世界に誇れる自然を観察しながら、ハイキングを楽しむ。

ねらい

- ・美しく多様な自然に触れ、その大切さを感じ取らせる。
- ・ハイキングのマナーについて知り、奥日光の「特別保護地区」の規制の必要性について考えることを通して、貴重な自然を残していこうとする態度を育てる。

教科に見る活用場面

- ・中学校 理科（第3学年）「自然と人間」
- ・高等学校 理科（生物基礎）「生態系とその保全」
（生物） 「生態と環境」

活動の内容

- (1) 季節や目的に応じて、ハイキングの計画を立てる。その際、体力に合った、ゆとりのある計画とする。
- (2) ハイキングに出かける。ワークシートも用意し、生徒一人一人の「気付き」を記入する。
- (3) 最後にみんなで感想を述べ合い、「気付き」を共有する。

準備するもの

- ・ハイキングの用意
動きやすい服装、履き慣れた靴、帽子、手袋、雨具、防寒具、地図、救急薬品、食料、飲み物、ゴミ袋など

〔ハイキングを行う上の注意〕

日光国立公園の奥日光地区は、ほぼ全域が自然公園法の定める「特別地域」に指定されている。その中でも「戦場ヶ原」や「小田代原」などの湿原をはじめ、滝や山岳の多くが最も規制の厳しい「特別保護地区」に指定されており、人為的な影響を極力少なくするため多くの人々による努力が続いている。

「私たちは自然の中に入らせてもらう立場である」ことを十分に理解させる上でも、以下に挙げた一見当然のマナーに思える注意事項を守る必要性を考えさせることも、とても大切である。

【「参考：日光自然博物館からのメッセージ」(p.34)】

～ハイキングのマナー～

- 1 ごみは捨てずに持ち帰る
- 2 野生動物にえさを与えない
- 3 自然物（野生の動植物、落葉、小石など）を採取したり、地域外に持ち出したりしない
- 4 道路・歩道や決められた場所以外は立ち入らない
- 5 その地域に生息していない動植物を持ち込まない（靴底にも注意を！）
- 6 ペットを持ち込まない
- 7 地域内で騒音を出さない
- 8 トイレは決められた場所で済ます



○指導上の工夫・留意点

- ・遠足や体験学習に位置づけると、「自然を守る」という意味を一步深く考える機会になる。
- ・貴重な機会なので、単に自然に親しめばよいということだけでなく、日光自然博物館、日光湯元ビジターセンターなどと連携し、付加価値を付けることが大切である。事前に連絡を取り、下見の際に訪問することも考えられる。学習内容だけでなく、生徒の移動、混雑の時間帯などに関する情報も得ることができる。
- ・日光の自然にかかわっている方々からのお話を聞く機会を設けると、教員としての自然に対する認識も高まる。
- ・ハイキング中の事故防止のために万全の注意を払う。天候の急変や遭難した際のことを考え、服装、雨具、食料、飲み物など、具体的に指示する。また、健康観察や支援体制についてもチェックしておく。なお、携帯電話を過信することは禁物であり、使えない状況を想定しておく。
- ・奥日光では、木道は右側通行が原則である。一時的に並んで歩く、立ち止まるなどの場合は可能な状況であるかを考えさせる。急ぐ人に先を譲ることも教えておく。人数が多いときは、一般ハイカーの迷惑を考え、小グループに分けるなどして時差スタートをしたり、コース分けをしたりするなどの配慮が必要である。
- ・歩く際にはあいさつも大切なマナーだが、団体の全員があいさつするのはかえって迷惑になることもあるので、何人かがあいさつし、後は会釈程度にするなど、相手を気遣うことがマナーの基本であることを話しておく。
- ・関連プログラムとして、「ラムサール条約と渡良瀬遊水地」(p.24)、「森の会議：奥日光の『シカ問題』を考える」(p.35)がある。

○ワークシートの例

奥日光の自然を知ろう ～ネイチャーツアーに出かけよう～	
	年 月 日 氏名
1	コースと日程
2	服装・持ち物
3	学習のテーマ
4	気付いたことなど

○ハイキングのマナー (p.29の1～8) と守る理由

- 1 ごみは捨てずに持ち帰る
野生動物を餌付けする結果となったり、プラスチック類を食べて病気になったりすることが考えられる。また、美観を損ねる、ごみ処理費用が膨大になるなどの問題がある。
- 2 野生動物に餌を与えない
野生動物を餌付けすることになり、自分で餌を取ることをしなくなる、人間を怖がらなくなる、人里まで下りてきてしまうなどの悪い影響が考えられる。
- 3 自然物(野生の動植物、落葉、小石など)を採取したり、地域外に持ち出したりしない
動植物の絶滅を防ぐために、密猟(漁)や盗掘は絶対に許されない。手に取った落葉や小石でさえ、生態系の一部であることを考えると、その場にそっと戻しておく。
- 4 道路・歩道や決められた場所以外は立ち入らない
人に踏まれることで一度裸地化すると、厳しい気候のため植物の回復が困難になる。車などでの立ち入りも厳禁である。特に木道からは絶対に降りないようにする。
- 5 その地域に生息していない動植物を持ち込まない(靴底にも注意を！)
オオハングソンソウ、ハルザキヤマガラシ、セイヨウタンポポ、オオアワダチソウ、ヒメジョオン、ブラックバス、などの外来生物がはびこると在来種が生息する環境(場所)が少なくなるという問題があり、遺伝子レベルでの影響なども心配されている。
- 6 ペットを持ち込まない
野生動物の生息・環境を脅かし、地域外からの動物が持つ寄生虫や病原菌が、生態系に壊滅的な打撃を与える可能性も否定できないため望ましくない。
- 7 地域内では騒音を出さない
不必要な騒音は、自然の音を楽しむ人にとって不快であるだけでなく、敏感な野生生物に繁殖を放棄させるなど思わぬ影響を与えることが考えられる。
- 8 トイレは決められた場所で済ます
人間の糞尿からの病原菌による生態系への影響、水源地の汚染、富栄養化が問題になる。



○目的別お勧めコース・・・日光自然博物館や日光湯元ビジターセンターに相談するとよい。

◎生態系観察（四季を通じて）

お勧めコース：湯滝～戦場ヶ原自然研究路（右図）

- ・湿原の成り立ちと遷移は？
- ・土の中、水の中、草原や森など、それぞれに住む虫や動物などの生き物を見つけよう。
- ・植物と動物の関係は？
- ・自然の中での植物や動物のつながりを考えよう。
- ・人間は、どんなところで自然とつながっているか？

◎植生観察（春から秋）

お勧めコース：小田代原～戦場ヶ原自然研究路（右図）

- ・自宅の周りに生えている草や木と違いはあるか？
- ・奥日光で見られる植物にはどんなものがあるか？
- ・湿原の植物にはどんなものがあるか？
- ・日光と名のつく植物を探してみよう。
- ・「外来生物」ってなんだろう？
- ・さわたり、においをかいだりしてみよう。

◎バードウォッチング（5～6月、11～2月）

お勧めコース：湯元～戦場ヶ原自然研究路（右図）
湯元～切込湖、刈込湖

- ・さえずりの役割はなんだろう？
- ・耳をよーくすまして「ききなし」を作ってみよう。
鳥のさえずりを人の言葉にしてみると…例えばホトトギスの「特許許可局」など
- ・鳥のすみやすい環境とは？
- ・鳥の目と人間の目は似ている。鳥の目で食べ物を探してみよう。
- ・鳥の行動をよく観察しよう。何をしているのかな？
- ・なぜ、鳥は渡りをするのだろうか？



栃木県／おすすめハイキングコースWebページより作成

◎雨の日に外へ出てみよう（夏から秋）

お勧めコース：湯滝周辺

- ・雨の日に外へ出てみよう。いつもとは違った世界。
- ・雨にぬれた緑の輝き、花の色の美しさ。
- ・雨の日に動いている生き物はどこにいるのかな。
- ・土や苔の様子、感触、におい
- ・雨はどんなところを歩いていくの？

◎雪上観察（アニマルトラッキング）（冬）

お勧めコース：湯元、光徳

- ・雪上だと見つけ易い「フィールドサイン（動物の残した生活の情報）」を見つかけよう。
- ・足跡、糞、おしっこ、ペリット（肉食の鳥類が消化しない物を吐き出したもの）、羽毛や体毛、角をこすりつけた跡、食べ跡、熊だなどを見つかけよう。
- ・足跡を見つけたら、それをたどって試してみよう。どんな行動をしたか想像してみよう

◎冬芽と葉痕で見る落葉樹（冬）

お勧めコース：どこでも可能

- ・葉が落ちた跡（葉痕）をよく見てみよう。何がでてくるかな？…例えば、サワグルミは笑い顔に見える。
- ・葉痕のすぐ上にある凸部が冬芽。この中に、来春、花、葉、枝になる準備がちゃんと準備されている。
- ・葉っぱや花がなくても、冬芽、葉痕を見れば木の名前がわかる。

オーダーメイドの自然体験活動をしたい時は、「日光自然博物館」で相談できる。

●事前予約制 ●場合により費用が必要 ●オールシーズンOK

Tel:0288-55-0880 Fax:0288-55-0850

e-mail:nikkonsm@maple.ocn.ne.jp URL: <http://www.nikko-nsm.co.jp/>

○活動にあたって参考となる文献やWebサイト

- ・日光自然博物館 <http://www.nikko-nsm.co.jp/>
- ・日光湯元ビジターセンター <http://www.bes.or.jp/nikko/vc/>